


人と自然が共生・共創するCo-ベネフィット型未来都市の実現

大阪府阪南市（2022年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標	高齢化・子育て世代の流出といった課題の克服に向け、大阪都市近郊にありながら、山と海が近く、浅瀬や干潟等の豊かな自然を有している強みを活かして、市外の企業等と連携し、カーボンニュートラルに取り組む。また、環境や市民にやさしいまちとして、関係人口・交流人口を拡大させるなど、三側面の相乗効果を発揮させながら、時代の一步先をゆく持続可能なまちづくりを進める。	2. 関連するゴール	
3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	農空間や海浜空間といった地域資源を活かし、カーボンニュートラルの取組を通じて様々なCo-ベネフィット（恩恵）を創出することで、関係・交流人口を増やし、消費の拡大につなげる。環境にやさしいまちに集まった人々が、健康でウェルビーイング（持続的幸福感）を感じられる取組を推進し、持続可能で好循環な地域づくりの実現を図る。		
4. 自治体SDGs推進等に向けた取組 <ul style="list-style-type: none">○多様な主体との共創による取組の展開<ul style="list-style-type: none">・阪南市をフィールドとして、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来のデザイン」の実現に向けたSDGsの取組として、企業や団体等と連携した51の共創チャレンジを実施。○アマモとお茶から始まるカーボンニュートラルの取組<ul style="list-style-type: none">・アマモ場の再生・保全、ブルーカーボン促進に向けた取組や、お茶のある暮らしプロジェクトや茶畑拡大の取組。○はんなん・Co-ベネフィット創出協議会による取組<ul style="list-style-type: none">・関係者で構成する協議会を開催。はんなん・Co-ベネフィット創出ネットワーク登録制度を運用し、会員相互の交流や市民への普及啓発に向けてイベントを開催。	6. 取組成果 <ul style="list-style-type: none">○自然共生サイトとしての認定・ブルーカーボン促進に向けた取組<ul style="list-style-type: none">・沿岸域の自然系海岸（藻場）の自然共生サイトとして、全国唯一の認定。産官学連携により、「ブルーカーボン促進のための栄養塩供給プロジェクト」や「阪南市のブルーカーボン施策推進に関する包括連携協定」を締結。○お茶のある暮らしプロジェクト<ul style="list-style-type: none">・（株）伊藤園や（一社）ハンナンテとの連携により、市民へのお茶のある暮らしの普及、茶畑の造成・育成、市民参画によるイベントの開催やインバウンドの受け入れに向けた試行を実施。○はんなん・Co-ベネフィット創出ネットワーク登録制度の運用<ul style="list-style-type: none">・企業・団体の登録促進に向けて、はんなんSDGs万博などイベント開催時に普及啓発を図り、41企業が登録。○環境教育の推進<ul style="list-style-type: none">・市内のすべての小学校において、SDGs出前講座・海洋教育を実施。学校教育のみならず社会教育としての海洋教育を根付かせるための「はんなん海の学校」を創設。		
5. 取組推進の工夫 <ul style="list-style-type: none">・取組のすそ野を広げるために、はんなん・Co-ベネフィット創出ネットワーク登録制度を創設したが、企業・団体の登録促進が課題となった。登録を促進するために、他都市の事例等も参考としながら、普及啓発に取り組み、登録の促進を図っている。	7. 今後の展開策 <ul style="list-style-type: none">・はんなん海の学校の継続実施や茶畑の他地区への展開などを通じて、市民参画のすそ野を広げ、SDGs未来都市の取組を推進していく。		
8. 他地域への展開状況 （普及効果）	地球環境の改善はもとより海洋の持続可能な発展を産官学が連携して新たな産業や雇用を生み出し、イノベーションを進めていく「ブルーエコノミー」の取組について、更なる機運醸成を図り推進していくために、阪南市と（一社）夢洲新産業・都市創造機構主催、関係各位の支援のもと「第1回ブルーエコノミー日本サミット」を開催。本市の海の取組を紹介した。		